

よっ 真打ち登場！！ 待ってました！！

落語家の世界には「前座」「二ツ目」「真打ち」という階級がある。

さる落語会で、枕の話の中で「真打ち」という呼称のいわれを語っている人がいた。そして、その流れの中で「トリを取る」「割り」などの言葉にも触れていた。観客席では頷きや「へーっ」が繰り返され、終演後「何となく耳にしている言葉の意味がわかって有意義だった」という反応が多かった。

「前座」「二ツ目」「真打ち」という階級の更に前に「前座見習い」という準備段階もあるらしい。弟子入りするとまずは「見習い」となり、お眼鏡にかなえば「前座」になり「落語家の入り口」に立つことが許されるということのようだ。

「前座見習い」になると、師匠や兄弟子のカバン持ちから身の回りの世話まで様々なお手伝いをする。落語の稽古はもとより着物をたたんだりお茶を入れたり、はたまた寄席囃子の稽古に至るまで様々なことを学ばなければならない。そして師匠から許しが出れば、晴れて楽屋入りができる「前座」となる。

「前座」という言葉は読んで字の如しでわかりやすい。主人公が高座に上がる前に座ることから付いた呼び名と思われる。前座になると楽になると言うことはなく、これまでの「前座見習い」の仕事のほかに楽屋に入って様々な仕事をこなさなければならない。楽屋の掃除からお茶くみなどの雑用のほかに、寄席のめぐりを整えたり高座の座布団を返したり、一番太鼓から追い出しまで太鼓やお囃子も担当することになる。

師匠や兄弟子の家来だった段階から一步出て、他の師匠や寄席の席亭さんなどからも見られる状態になり、「社会進出」の一步目ということになる。つまり、前座以降の昇格人事には師匠以外の外部の人の目も入ることになる訳で、概ね 4~5 年はかかるだろうと言われているようだが、これからの人生を決める大事な時期になるのだろうと思う。

「前座」が高座を下りると、二番目の高座に上がることから「二ツ目」と名がついたらしい。「二ツ目」になると師匠や兄弟子の雑用係の仕事からは解放され、衣装の面でも紋付・羽織・袴の着用が許される。楽屋入りしての雑用もなくなるが、その代わり高座に上がる仕事は自分で見つけて来なければならない。ここでどれだけ稽古を重ねて、どれだけ高座に上られるかによって、収入も腕の磨き具合も変わってくる。10年~15年はかかるだろうと言われているようなので、所帯持ちには大変な時期に違いない。

そして、目指す「真打ち」という階級に昇進することになるのだが、大相撲で言えば大銀杏を結うことができ、立派な着物を着て付け人を従えることもできる「十両昇進」に匹敵するのかもしれない。

大相撲の世界ではこの後もいくつかの階級が控えており、最上段の横綱に駆け上がることができるのはごくわずかな人にすぎない。一方落語の世界では、「真打ち」という階級が最上位で、努力を怠れば客の目がこれを評価し、仕事の声がかからなくなるという厳しい環境になる。

その昔、まだ電気の照明がなかった時代には寄席ではろうそくの灯りを使用していた。一日の番組の最後を締める落語家（トリ）は、高座を下りるとろうそくの芯をパチン・パチンと打って消し歩いたので「芯打ち」と言われ、それが転じて「真打ち」となったらしい。

つまり、「トリ」は「真打ち」の階級の者にしか許されていなかった。

真打ち昇進披露の会では、新しい真打ちにトリを取らせてくれる。

前述の大相撲の世界では、艱難辛苦の末大銀杏が結える関取になり、そして入幕し、さらに上位に進出し、初めて結びの一番で東の正横綱と対戦する地位まで来たのと良く似ている。永年の苦勞の末得られる「栄誉」と言っても良い瞬間に違いない。

平成 6 年に会社の仲間とそのまた仲間とが繋がり合って、豊洲で社会人落語の会「都笑亭 (Twilight-tei)」を旗揚げした。かれこれ 22 年の歳月が流れ、定期的で開催する会も 107 回になった。

発足当時からのメンバーの一人に三龍亭多留満（さんりゅうていだるま）がいた。子どもの頃から落語に親

しんでいたこともあり、他のメンバーよりも一枚抜きんでいた。その名の通りのダルマのような体型で、気風のいい江戸前の落語を社会人落語とも思えない入念なこなし方で語り、ファンが多かった。意を決してプロへの道に進むことにした多留満は平成14年橘ノ圓師匠の門に入った。時に38歳、遅いプロ入りではあったが、橘ノ富多葉（たちばなのふたば）の名をいただき落語家としての船出をした。平成18年に二ツ目に昇進し、橘ノ圓満（たちばなのえんまん）と名を変えた。そして、平成28年5月に真打ち昇進を果たした。入門から数えて14年、我が事のようなうれしさを感じた上に、落語芸術協会の真打ち昇進披露宴に出席するという光栄にも浴すことができた。披露宴だけでは物足りないので、6月13日の池袋演芸場へ「新真打ち橘ノ圓満がトリをとる」のを見に行ってきた。

ほぼ満員の演芸場で、得意ネタの「豊竹屋」をたっぷり聴かせてくれた後、深々と頭を下げている圓満の前を幕がスーッと走って閉まる。「真打ちになった」「トリをとった」という実感が空気として伝わってきた。



上写真：橘ノ圓満（落語芸術協会ホームページより）

この感動の瞬間を出発点として、52歳の新真打ちがさらなる飛躍を重ねて行くことを願っている。

以上

<ついでにひとこと>

都笑亭から飛び立ってプロ入りし、真打ちになった橘ノ圓満を14年前に応援して下さったお客さまとともに祝いたいと思い、特別企画の会を開くことにした。

題して 都笑亭 Vol.108 「橘ノ圓満真打ち昇進披露の会」

9月15日、豊洲文化センターに祝いの笑い声が轟き渡ることを期待して……。 詳細はこちらから

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/sub2.html>

新しい街 笑いが結ぶ 新しい出会い

Twilight-tei since 1994

都

笑

亭

とわいらいとてい Vol. 108

都笑亭から飛び立ちプロ入りした 三龍亭多留満
真打昇進を果たした 橘ノ圓満を 皆で祝います ご祝儀遠慮無用!?

特別企画 橘ノ圓満真打ち昇進披露の会

●江東区豊洲文化センター レクホール（豊洲シビックセンター7F）
東京メトロ有楽町線・ゆりかもめ豊洲駅下車 <7番出口>

●平成28年9月15日（木）18時開場 18時半開演

●出演 橘ノ圓満
橘ノ双葉
橘ノ百圓
河内家るばん・久看里菊之助
南亭八つ頭・三崎家桜の輔

●木戸銭 前売 1,000円
当日 1,500円

主催：都 笑 亭
協力：江東区豊洲文化センター

☆☆申し込み・問い合わせ☆☆
豊洲文化センター
☎ 03-3536-5061

誠に恐れ入りますが
未就学児の入場は
ご遠慮下さい

皆様のおいでを お待ちしております